

書香

1997. 10. 31

No. 30

目

次

ジェントルマンの国の図書館 (人文学部教授 東田雅博) …………… 1	附属図書館増築竣工記念式典を举行…………… 7
<諸報>	<シリーズ>
電子図書館へようこそ…………… 2	《CD-ROM 情報検索サービスの紹介(XI)》…………… 8
小泉八雲「怪談」の世界…………… 3	附属図書館統計(平成6年度～平成8年度)…………… 10
大学図書館におけるサービスの充実と発展 (事務部長 竹若重勝)…………… 4	参考図書案内…………… 12
<ニュース>	全国国立大学大型コレクション及び 自然科学系特別図書案内…………… 13
阿刀田 高氏「ヘルン文庫」を見学…………… 6	平成9年度附属図書館商議員名簿 (平成9年9月1日現在)…………… 13
増築建物の開館を祝してテープカット…………… 6	富山大学附属図書館施設案内…………… 14

ジェントルマンの国の図書館

人文学部 教授 東田 雅博 (とうだ まさひろ)

ジェントルマンの国の図書館とは言うまでもなく大英博物館 British Museum と同居している大英図書館 British Library のことである。あのドーム型の大閲覧室をもつ大英図書館のことである。一度はこの大閲覧室で読書をするという愉悅を味わってほしいものである。但し、大英図書館はセントパンクラス駅の傍に移転することが決まっており、建物もすでに完成しているので、まもなくこの大閲覧室は使用できなくなるはずである。だから、あるいはもう手遅れかもしれない。が、それほどがっかりすることはない。

大英博物館のなかの大英図書館が大英図書館のすべてではない。実は、分館もある。大英博物館の大閲覧室は、たしかにすばらしい。雰囲気的には最高である。だが、図書館の本当のすばらしさは、利用者にとっての利便性である。この点では、ここはまいちということになる。蔵書は眼も眩むほどで、興味を掻き立てる本が山ほどある。ところが、その本を手に入れるのに、3～4時間待たされるのである。ただ待っているのも馬鹿馬鹿しいので、大英博物館のほうを見学して席に帰ってくるとまだ本が来ていない。そこで、問い合わせにいくと、本を持っていったときに席を空けて

いたではないかと叱責されるのだから始末が悪い。というわけで、大閲覧室はムードを楽しむにはよいが、実際的にはあまり成果があがらない。(但し、これはわたしのように1, 2世紀前の図書を利用する場合の話である)。むしろ、お薦めしたいのは分館, Newspaper Library である。

この分館は、地下鉄の Colindale 駅のすぐ傍にある。都心部からは少し離れており、あたりにはなにもない。がしかし、日本人にとってはありがたいことにスーパーヤオハンがある。それはともかく、この分館は実にすばらしい。世界中の新聞、週刊誌の類が完璧なまでに揃っているというだけでなく、実に利用しやすいのである。ここでは頼んでおいた史料が、20～30分で閲覧できる。だから、適当に間隔を置いて史料を頼んでおくと、つぎつぎと史料が席まで運ばれ、読んだ史料は席の傍に置いておけばつぎつぎと持ち去られていくのである。つまり、利用者はただ席に座りつぎつぎと運ばれてくる史料を読んでいけばよいのである。この専門の職員によって閲覧したい図書が席まで運ばれ、読み終わった図書が運び去られるというシステムにおそらく日本人はジェントルマンの国をある程度実感できるはずである。

《大学開放事業》

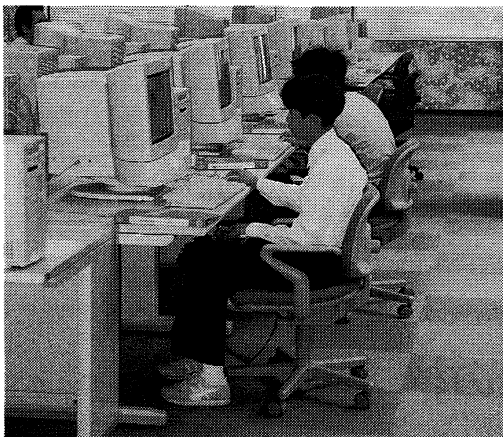
—— 夢大学 in TOYAMA '97 に 2 企画で参加 ——

大学開放事業 夢大学 in TOYAMA '97が、9月13日・14日の2日間本学を会場に開催され、附属図書館では、『電子図書館へようこそ』、『小泉八雲「怪談」の世界』の2件を企画し、2日間にわたってそれぞれパネル展示及び公開を行った。昨年度（平成8年度）は、附属図書館の増・改

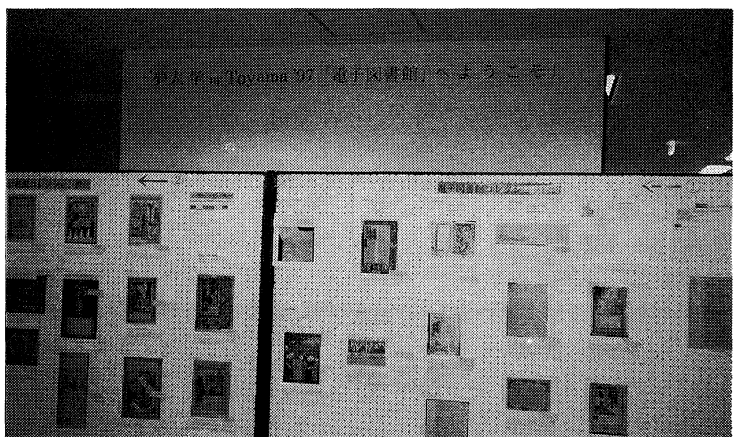
築工事のため同事業に参加できなかったが、平成9年2月長年の願いであった建物（6階建て）が完成し、新館の1階と5階を使って事業を実施した。

2日間で373名もの見学者があり、まずまずの成果であった。

==== 電子図書館へようこそ ====



▲ 電子図書館を実体験



▲ 電子図書館をパネルで紹介

現状の日本の図書館関連インターネット・ソリースを含む通信環境では、とても「電子図書館へようこそ」という台詞なんて吐けない状況ですが、そこは「夢大学」ということで、「電子の書架を浮遊する気分」を疑似体験していただけるよう努めてみました。

図書館1階の「マルチメディア・コーナー」で、各国の「電子図書館」サイトのコレクションの一部を紹介するほか、実際にWWWによるインターネット上の情報探索や、CD-ROMによる新聞および雑誌の記事検索、そして光ファイリング・システムによる富山大学の入試問題の検索を体験できる場をそれぞれ作ってみました。

また、100インチのプロジェクターを使って、ジャバ・アプレットを用いた人体や自動車のアニメーション、世界のニュースの配信サービス、そして「電子図書館」などのサイトにアクセスした画像もご覧いただけるようにしてみました。

会場に10台用意したネットワーク接続端末を使って、実際にインターネット上のさまざまな情報資源や、図書館内のCD-ROMサーバーに納めてある新聞や雑誌の記事索引にアクセスし、はじめての方々に多少なりとも「電子図書館」的機能の一端を具体的に体験していただけたことと思います。

ところで電子図書館については、エレクトロニック・ライブラリーあるいはデジタル・ライブラリーとも呼ばれ、基本的には従来の図書館がもつ情報

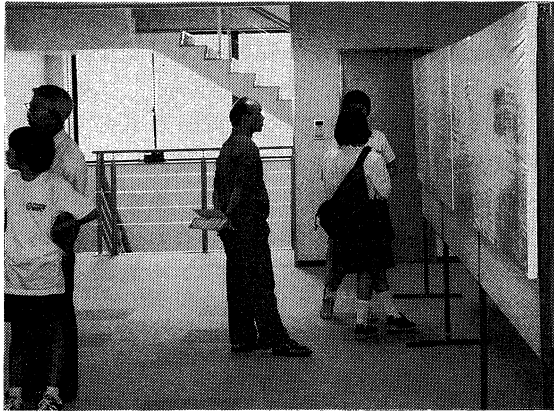
資料の収集、組織化、保存、提供などの機能を電子化して有機的に結合し、さらに、扱う情報資料が電子化されることによって、統合された電子化システムとして機能する図書館のことである、というようにみなされています。現在のネットワークの状況では、利用者がインターネット上の電子の書架に並べられた電子図書館資料に意のままにアクセスし、パソコンの画面にスムーズに取り出して見るには、いささかレスポンスに問題があります。

ということで、事前にアメリカの議会図書館がサービスしている電子展示などから、時間をかけて表示させたコレクションの中から、画面印刷したものを世界の「電子図書館」へのアクセス見本として、100点余りパネルに掲示していろいろ見ていただけるようにしてみました。中学あるいは高校の教科書などで一度は見聞きしたことのある歴史的な資料などが、きっと見学者の目にもとまったことでしょう。

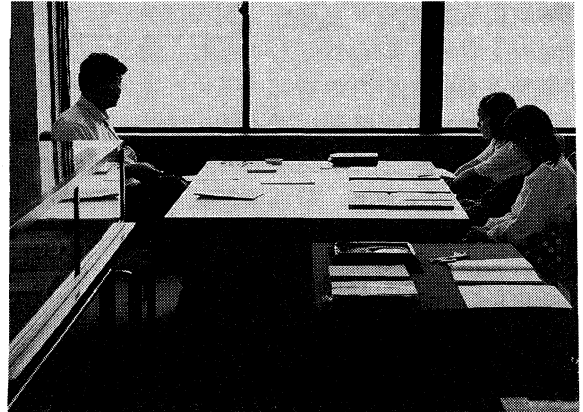
今回の企画の準備作業中に探り当てたURLは、本学図書館のWWWページに「夢大学 in TOYAMA '97：附属図書館企画」(http://www.toyama-u.ac.jp/tya/library/library_97.html)をとりまとめてあります。ご覧下さい。

(問合せ先：yoshida@lib.toyama-u.ac.jp)

—— 小泉八雲「怪談」の世界を紹介 ——



ヘルンのパネル展示を見入る見学者



ヘルン文庫の説明を聞く中学生

5階のロビーにはパネル展示を中心として、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の生い立ちから来日、作家活動などの紹介や、八雲の描いた幽霊の傑作をパネル展示で八雲の絵の巧さを紹介した。殆どが「秘本妖魔詩話」から写真複製して数点展示したが、拡大してみると一層その凄さが見る人を魅きつけた。

9月に取材を兼ねて来館された阿刀田高氏のサイン色紙や北陸中日新聞に連載中の同氏の連載小説「怪談」の切り抜きなども展示した。連載中の「怪談」は八雲の伝記的小説で、八雲を知る上で参考になる小説である。

今回公開の試みとして、ヘルン文庫に所蔵する364冊の和装本のうち、八雲の作品の底本となった図書の展示を行った。八雲の作品の多くは再話文学ともいわれ、例えば「怪談」の中にある「耳なし芳一の話」は「臥遊奇談」から、「ろくろ首」は「怪談輿論」などの外、古今著聞記、百物語な

ど10点余りの和装本を展示した。

また、八雲の晩年の大作である「神国日本」原稿1200枚も展示した。今回は特に、今年の5月にNHKスペシャルで「天皇の二つの独白録」で紹介されたマッカーサー元師の秘書官フェラーズ准将が、「神国日本」を通じて日本民族の「精神」を研究し、それが太平洋戦争の終結に貢献したともいわれ、歴史的な図書の「原稿」として見る人も感慨深そうだった。

なお、新しい「ヘルン文庫」は、常設の展示コーナー、八雲の著書や八雲研究の著書などヘルン関係文献1,600冊を配架した「ヘルン閲覧室」、2,435冊の八雲の蔵書を収めた櫛材を使った真新しい収蔵庫からなっている。今度の移転で4度目であるが、これでようやく八雲も安住の地を得たことであろう。

ヘルン文庫は、事前に申し出があれば見学や閲覧ができる。

大学図書館におけるサービスの充実と発展

事務部長 竹若 重勝

私は、本年4月1日付けで文部省大学共同利用機関放送教育開発センター（現在はメディア教育開発センター）から着任しました。瀧澤図書館長、関係委員会の先生方の指導の下に、また同僚の協力を得て初めての職務に励んでいます。

図書館関係のブロック会議、全国会議に出席し、図書館の機能・業務、管理運営あるいは図書館を取り巻く最近の動向などについて、熱心な討議がなされたのが印象に残っています。しかし、会議で時折飛び交う専門用語には閉口しました。

私の理解不足により不明確なところがあると思いますが、ここで、今年度に入ってから会議等の内容を基に、私見を述べさせていただきます。

今、大学改革等とともに大学図書館は、これまでにない大転換期を迎えているといわれていますが、今後、大学図書館は新しいニーズにどのように対応すればよいかについて、次のように整理してみました。

1. マルチメディア時代到来による電子図書館機能の充実への対応

・・・＜電子図書館的機能＞

マルチメディアは、文字・音声・静止画・動画等をデジタル処理することから、同時性・双方向性・表現の多様性・情報の蓄積・検索能力の向上などの特徴を有していますので、新しい図書館業務に大いに役立つといえます。

21世紀を迎えての高度情報化社会に対応するために、文部省が平成7年8月に「教育・学術・文化・スポーツ分野における情報化実施指針」を策定したことより、文部省各局はマルチメディア対応の施策を講じています。前任地の放送教育開発センターでは、従来、放送を利用した大学教育の内容・方法等の研究開発を行うことを目的としていましたが、全面改組により本年4月からは、高等教育におけるマルチメディアの利用を促進するための中核的機関として、単に放送メディアだけでなく、コンピュータと通信の融合による多様なメディアを高度利用した教育の内容・方法等の研究開発及び成果の提供を行うこととなりました。

この新しいメディア教育開発センターの例は、文部省高等教育局の施策の一つですが、大学図書館を所管する学術国際局では、平成8年7月の学術審議会「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」を踏まえ、平成9年度予算において学術情報センター関係で電子図書館構築経費（新規）、国立学校関係で電子図書館化の推進（新規）が措置されています。これ以外の電子化については、既定経費をやりくりして各大

学が実情に合わせて取り組むことになっています。

電子図書館的機能はあくまでも手段的機能であり、本来の目的を持つ伝統的な図書館機能とは区分されるものであり、それは全体としての図書館機能をより効率化・高度化に向けるもので、大学図書館の充実につながります。既にいくつかの大学図書館で取り組みがなされていますが、大学により人的・物的等の事情が異なると思います。学内の十分なコンセンサスを得ながら進めることが肝要です。

私は、この一番目の事項に対応する機能を＜電子図書館的機能＞と呼びます。

2. 大学の情報基盤整備の進展に伴う図書館機能の強化・高度化への対応

・・・＜伝統的図書館機能＞

本学図書館は、関係者の尽力により本年5月に増改築が竣工し、リニューアルオープンしました。建物総面積、蔵書収容能力で約2倍となる一方、設備の面では「マルチメディアコーナー」「マルチメディア研修室」などの新設に伴い、最新の情報機器が導入され、学内LAN接続整備とともに物理的機能は著しくアップしました。多くの大学図書館が困っておられるスペース不足、最新の情報機器の配置、適切な防災施設などの事柄については本学図書館では解消しましたが、新しい課題が生じています。それは、新しい図書館となって、今、求められている多様で高度なサービスをどのように展開し、充実していくかという課題です。

本学図書館の増改築計画策定に当たって、「附属図書館増築に関する検討委員会」「附属図書館商議会増築検討委員会」「附属図書館自己点検評価委員会」及び「附属図書館機能強化検討小委員会」等の各種委員会では、平成4年7月の学術審議会答申「21世紀を展望した学術研究の総合的推進方策について」並びに平成5年12月の学術審議会学術情報部会報告「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」を踏まえて検討がなされました。この時の成果を再び活かして将来の図書館構想を練ることは、意義深いと思います。併せて、引き続き図書館業務の自己点検・評価を行いつつ、見直し・改善が図ればという希望を抱いています。

ところで、大学図書館の機能・業務に関して、よく引き合いに出されます大学図書館基準（昭和57年5月改正）の「2」の（1）には、「大学図書館は、大学の研究・教育に不可欠な図書館資料を効率的に収集・組織・保管し、利用者の研究・教育・学習等のための利用要求に対し、これを効果的に提供することを主要機能とする。・・・」

とあります。前記「1」で述べましたように、電子図書館の機能が拡大しても、それは手段的機能を果たすのみです。『在来の実際の図書館に完全取って代わることは出来ないことは明らかであろう。』（六本東大附属図書館長）であり、一図書館の本来の機能のことをいっておられると思う一私たちはもう一度、大学図書館基準でいわれている機能の重要性を再認識しなければいけないと思います。

私は、この二番目の事項に対応する機能を＜伝統的図書館機能＞と呼びます。

3. 大学図書館の地域社会・市民への開放についての対応

・・・＜図書館の生涯学習支援機能＞

地域社会・市民への開放は、最近、大学図書館の研究・教育・学習等の利用と並んで重要な役割の一つとなってきています。大学図書館には、公共図書館とは違い大学の研究・教育機能を果たすために集積された高度な学術研究情報があり、大学の事情が許すかぎりこの情報資源を活かして生涯学習活動を支援するよう要請されています。前記の平成5年12月の学術情報部会報告の「5」の（3）として「大学図書館の地域社会・市民への公開」平成8年4月の生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」更に同年11月の文部省高等教育局がまとめた「進む大学改革—大学の新しいすがた—」の中の「豊富な生涯学習機会の提供」で触れています。

本学図書館では、いち早く一般市民に、図書の貸出、ホームページ・OPACの公開等を行い、地域住民からも親しまれるよう努めてきました。特に、このたび本学図書館がリニューアルオープンしたこともありまして、最近になって急に学外利用者の数は増えてきました。この中に私大の通信教育学生や放送大学の学生の増加が目立ってきたことは嬉しいことです。

それから、全国的に注目されています本学地域共同研究センターが中心となって実施する大学開放事業（夢大学 in TOYAMA）への参加です。この事業は地域社会に対し大学における研究・教育活動の現状を公開して、連携協力の推進を図ることを目的に、地元の県市教育委員会、新聞社、テレビ局の後援を得て行っているものです。対象者は、中学生・高校生等の青少年、学校教員、社会人で、各学部・センターから、それぞれ関心を引き起こすような企画が盛り沢山あり、毎年好評をえています。図書館も平成7年度から参加しており、今年度は、9月13日（土）14日（日）の2日間に亘って、「小泉八雲『怪談』の世界」「電子図書館へようこそ」の二つのタイトルで図書館の公開を行いました。

このように、本学図書館は地域社会に積極的に

働きかけており、今後も引き続けたいと思っておりますが、前記の「1」「2」の対応とは違う運営上の難しさを感じております。

私は、この三番目の事項に対応する機能を＜図書館の生涯学習支援機能＞と呼びます。

以上の三つの機能以外には、保存図書館としての機能、学術情報の発信基地としての機能もいわれていますが、現段階では、はっきりとした方針が定まっていないのではないのでしょうか。とりあえず、この三つの機能（＝電子図書館的機能＋伝統的図書館機能＋図書館の生涯学習支援機能）に絞って図書館のサービスの充実を考えたいと思います。まず、図書館の目指す形は、何かであります。それは、大学図書館ごとに異なり学内の要望に基づいたものであり、創意工夫がこらされた正に“特色ある図書館づくり”にあると思います。つぎは、図書館サービスの究極の目標ですが、効率性、高度性、多様性、有効性等があげられます。これらを目指して三つの機能が各々どうあるべきかを探り、更にこの機能を動かすのに要する三つの基本要素であるヒト、モノ、カネ（労務・財務の問題）の組み合わせはどうなるのかを戦略的に考えることが必要です。

基本方針に基づいて行動（実施）する前の意思決定過程では、当然、事柄の重要度により階層的に扱いが違ってきます。現実には、三つの機能及び基本要素は、入り乱れて不均衡の状態、互いに対峙し矛盾しあうこともあり、この場での苦悩・葛藤は、組織内の対立を生じ意思決定が遅れることがあります。組織の調整機能がうまく働かないときは、更に上層部の意思決定を待つしかありません。このような過程を経てこそむしろ大学図書館の大きな発展が望めると信じています。このほかに、各大学（図書館）には、独特の職域の雰囲気といったものがありますが、これは組織文化又は組織風土といわれるもので、率直にいいまして、よい面とわるい面があると思います。時代の要請に迅速且つ適切に対応するには無駄があってははいけません。リーダーシップをとる者の役割もポイントになりますが、組織内にある好ましくない慣習は早く払拭すべきでしょう。つまり、意識改革も図書館の発展にとって大切です。それから、私は、発展というものは、“仕事の流れ”を見て感じることで、人間の行動様式と集団・組織のそれとは同じく、意思決定（計画）—行動（実施）—学習（評価）の循環図式で前進し、その輪が段々と大きくなっていくものだと思いますが・・・。

新しい職務に就いて日が浅いうえに、燕辞を連ねましたことをお許し願います。大学図書館は、今、大転換期を迎えています。館員の皆様と一緒に頑張りたいと思っています。よろしく願います。

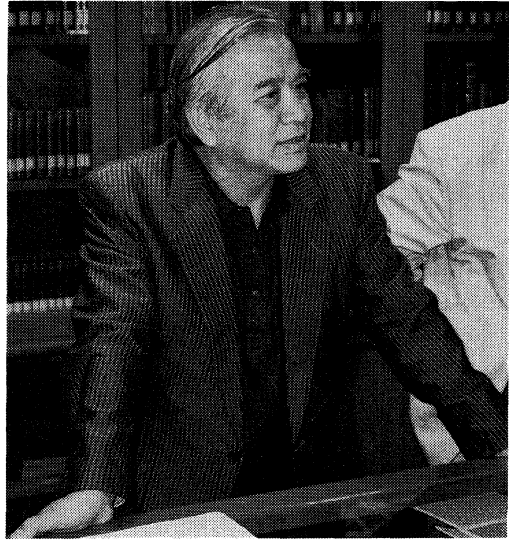
阿刀田 高 氏「ヘルン文庫」を見学

去る9月11日（木）文芸春秋主催の文化講演会の講演のため来富された阿刀田高氏は、北陸中日新聞に連載中「怪談」の取材のため、ヘルン文庫を見学された。

阿刀田氏は数年前に一度ヘルン文庫を見学されているが、今回は連載中の小説について、資料の確かめもあって来訪された。

新聞連載中の小説「怪談」は八雲の伝記的小説で、雑司ヶ谷の八雲の墓地での主人公の回想から始まっている。八雲の作品も随所に紹介され、これだけの小説を書くには相当の下調べがあったことが窺える。

エリザベス・ビスランドの八雲との書簡集を手にしたたり、八雲が心酔したスペンサーの図書を手



にして1時間余り熱心に見学され、再度訪問の希望をのべられ文庫を後にされた。

なお、氏は講演の冒頭でも富山大学の「ヘルン文庫」を紹介されたという。

増築建物の開館を祝してテープカット



テープカットする瀧澤館長と
人文科学研究科1年生江村佳代さん

平成8年3月着工した附属図書館の増築工事は、9年2月に竣工し装い新たにオープンしました。利用しやすい図書館をめざし、年度末から休館（本館のみ）にして諸準備を行ってきましたが、その準備が整い、去る、5月6日（火）から開館しました。

当日は、開館を祝し1階カウンター前においてテープカットを行い教職員、学生らと共に喜びあいました。

館内の施設概要は巻末に掲載しております。

附属図書館増築竣工記念式典を挙

附属図書館の増築工事が平成9年2月に竣工し、去る5月19日(月)新館2階の理工系雑誌情報室で竣工記念式典を挙

式典には、学内外から関係者多数が出席され、瀧澤附属図書館長の式辞、小黒学長の挨拶に続き文部省学術国際局学術情報課課長補佐から祝辞を頂きました。

式典の後、施設見学があり、続いて祝賀会が開

かれ竣工を祝いました。

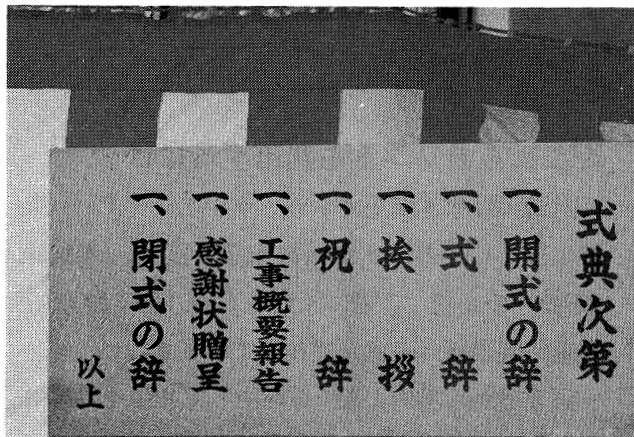
増築された建物は、6階建て床面積4,913㎡で十分にスペースのある学習図書資料室・雑誌情報室・研究図書資料室、最新の情報機器を備えたマルチメディア研修室、新たに保存・公開のために整備したヘルン文庫などがあり、快適な学習研究環境、貴重な資料の保存に留意すると共に、電子的な情報提供にも配慮した施設となっています。



▲ 記念式典において式辞を述べる瀧澤館長



▲ 記念式典会場



▲ 記念式典に列席された関係者の方々

《CD-ROM 情報検索サービスの紹介 (XI)》

CD-ROM ネットワーク情報検索
システムサービスの変更

この度ネットワーク対応の CD-ROM ソフトの内容が新しくなりました。使用できる CD-ROM は、「雑誌記事索引」1990-1997 (国立国会図書館)、「Social Sciences Index」1983.2-1997, 「科学技術文献速報 ライフサイエンス編 1997年版」, 「科学技術文献速報 物理・応用物理編 1997年版」の4種類です。

☆ソフト案内

「雑誌記事索引」は、国立国会図書館が収集した雑誌のなかで採録の対象となった雑誌（現在は約7000誌ほど）に掲載された論文、研究報告などの書誌情報が得られます。国内の学术论文（1990-1997）全般を検索したい時に大変有効です。論文の収集をしたいが、何から手がかりを得ていいのかわからない時などには是非ご利用下さい。下のように大変わかりやすい検索画面になっています。

「採録誌一覧」（1997年のディスクよりアプリケーション上で見られます。）でどのような雑誌が採録対象になっているかを確認すれば、自分が行った検索の“幅”がわかり、網羅的な検索を押し進めていく一つの手助けになるのではないのでしょうか。このソフトは Windows 95 の接続を確認しています。

「Social Sciences Index」は社会科学関係の英文学術雑誌約350誌を索引化したものです。国外の社会科学関係の論文（1983.2-1997）を探したい時にご利用下さい。人類学、地域研究、経済、倫理学、地理、法律と犯罪学、少数民族問題、計画と公共管理、警察科学、政策科学、政治学、心理学と精神医学、社会奉仕と公共の福祉、社会学等、広い領域が検索できるようです。しかしその反面やはり網羅的な検索にはむかないようです。社会学系の論文を調べる手始めとして、また書誌事項の確認手段として、または検索したい雑誌が採録対象雑誌となっているかどうかをオンライン上の「Periodical List」で確認しながら、他のデータベースと合わせて文献収集にお役立て下さい。

「科学技術文献速報 ライフサイエンス編」は冊子体「科学技術文献速報 ライフサイエンス編」の CD-ROM 1997年版です。分子生物学、生物科学、生科学、バイオテクノロジー、薬化学、薬理学等、基礎から臨床を含む医学全般、生命工学の各分野にわたる検索が可能です。

「科学技術文献速報 物理・応用物理編」は冊子体「科学技術文献速報 物理・応用物理編」の CD-ROM 1997年版です。数理物理学、基礎物理学、原子核物理学、素粒子物理学、他多種の分野が検索可能です。

☆これらのソフトを利用するには

附属図書館本館南マルチメディアコーナー（新館1階）CD-ROM 専用端末⑦番⑧番、本館南（新館）の2階、3階、4階、5階（各1台）、工学専門図書室（1台）で利用できます。

研究室から学内 LAN を経由して利用を希望される場合は、附属図書館学術情報係までお申し込み下さい。利用する端末機は学内 LAN (tya-net) に接続しているものに限り、CD-ROM ネットワーク情報検索システム利用取扱要領により、「CD-ROM 情報検索システム利用申請書」に必

要事項を記入し提出してください。

第 号
受付年月日
CD-ROMネットワーク情報検索システム利用申請書
平成 年 月 日

富山大学附属図書館長 殿

CD-ROMネットワーク情報検索システムを利用したいので、「CD-ROMネットワーク情報検索システム利用承認書」を遵守し、次のとおり申請します。

申請区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 変更 (□Macintosh・□IPアドレス) <input type="checkbox"/> 取消		
所属	学部	学科	講座・係 研究室
職名	<input type="checkbox"/> 教授 <input type="checkbox"/> 助教 <input type="checkbox"/> 講師	フリガナ	内線番号
(身分)	<input type="checkbox"/> 助手 <input type="checkbox"/> その他の職員	氏名	印
電子メールアドレス	@toyama-u.ac.jp		
接続機器	機種名	メーカー名	
	<input type="checkbox"/> Macintosh <input type="checkbox"/> Windows95 <input type="checkbox"/> WindowsNT <input type="checkbox"/> OS/2 Warp		
	<input type="checkbox"/> Windows3.1+LANmanager		
IPアドレス	160.26.		()

*富山大学キャンパス情報ネットワーク(tya-net)の利用を承認されていること。

*MACユーザーの方は、Apple share で図書館のゾーン (lib193-zone) が見れること。

*記載不備のときは受付できない場合があります。

検	館長	事務部長	情報管理課長	情報サービス課長	学術情報係長	主務
印						

詳しくは附属図書館ホームページの「お知らせ」のなかの「CD-ROM ネットワーク検索サービス」(URL <http://www.toyama-u.ac.jp/tya/library/cdnet.html>) を参考にして下さい。



「CD-ROM 情報検索システム利用承認書」が附属図書館より交付されましたら、その www ページに端末設定マニュアル「Windows 95 用」「Macintosh 用」がリンクされていますので、ご覧になりながら設定して下さい。

また、以前からネットワーク対応の CD-ROM

をご利用の方は、まず以前のソフトのネットワークの割り当てをすべて切り離したうえで、新しく割り当てをしておして下さい。(端末設定マニュアルをご覧下さい) 接続可能端末は Macintosh, Windows 95, Windows NT です。

☆おわりに

それぞれのソフトには大変わかりやすい「オンライン Help」がついています。Social Sciences Index は簡単な検索マニュアルが附属図書館ホームページ「お知らせ」のなかの「CD-ROM ネットワーク検索サービス」中にリンクされていますので参考にしてください。(URL <http://www.toyama-u.ac.jp/tya/library/ssiman.html>) 検索に慣れていくと、研究室にいながらにいろいろな情報が簡単に手に入るようになるでしょう。ぜひ、研究室からもご利用下さい。

CD-ROM には、このネットワークサービスのほかに、附属図書館内でのみご利用いただく CD-ROM (スタンドアロン用) があります。その内容につきましては附属図書館ホームページ「参考資料 文献目録案内」の中の「CD-ROM 案内」をご覧ください。(URL <http://www.toyama-u.ac.jp/tya/library/cdromJ.html>)

☆お知らせ

オンライン情報検索で、JICST や NACSIS-IR の代行検索を図書館学術情報係がおこなっておりますが、JICST や学術情報センターからじかに ID を取得して研究室で利用することも可能です。最近では JICST の検索が www 上で大変簡単になりましたので、初心者の方でも簡単に検索できるようになりました。ID を取得する場合は直接 JICST か学術情報センターへお問い合わせ下さい。

情報サービス課学術情報係 (内線3706)

—— 附属図書館統計 (平成6年度～平成8年度) ——

区 分		平成6年度	平成7年度	平成8年度
蔵 書	和	557,723 冊	571,003 冊	583,711 冊
	洋	258,781 冊	265,177 冊	271,648 冊
	計	816,504 冊	836,180 冊	855,359 冊
所 蔵 雑 誌 数	和	9,406 種	9,786 種	10,182 種
	洋	4,612 種	4,724 種	4,849 種
	計	14,018 種	14,510 種	15,031 種
年 間 受 入 数	和	14,728 冊	13,280 冊	12,708 冊
	洋	6,934 冊	6,396 冊	6,471 冊
	計	21,662 冊	19,676 冊	19,179 冊
年 間 受 入 雑 誌 数	和	4,807 種 5,664 部	5,066 種 6,049 部	5,332 種 6,232 部
	洋	1,674 種 1,795 部	1,691 種 1,826 部	1,718 種 1,848 部
	計	6,481 種 7,459 部	6,757 種 7,875 部	7,050 種 8,080 部
年 間 製 本 冊 数 及 び 金 額	冊 数	4,968 冊	4,697 冊	4,830 冊
	金 額	8,038,248 円	7,609,138 円	7,779,615 円
奉 仕 対 象 者 数	学 生	7,229 人	7,372 人	7,470 人
	教 職 員	797 人	803 人	814 人
年 間 入 館 者 数 本 館	時 間 内	150,206 人/開館 257 日	158,651 人/開館 274 日	122,509 人/開館 216 日
	時 間 外	30,474 人/開館 206 日	31,219 人/開館 200 日	36,740 人/開館 200 日
年 間 入 館 者 数 工 学 専 門 図 書 室	時 間 内	61,022 人/開館 273 日	83,355 人/開館 275 日	93,024 人/開館 305 日
	時 間 外	9,563 人/開館 186 日	12,548 人/開館 199 日	16,833 人/開館 238 日
年 間 館 外 貸 出 冊 数 本 館	学 生	17,060 人 / 35,754 冊	17,017 人 / 33,868 冊	15,704 人 / 36,348 冊
	教 職 員	3,439 人 / 25,139 冊	3,769 人 / 23,234 冊	2,548 人 / 20,805 冊

区 分		平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	
年間館外貸出冊数 工学専門図書室	学 生	6,929 人 13,685 冊	8,030 人 15,653 冊	6,808 人 13,805 冊	
	教 職 員	3,269 人 6,794 冊	3,069 人 5,232 冊	1,971 人 4,212 冊	
参 考 業 務 利 用 者 件 数 (利用者別)	学 生	2,798 件	2,850 件	4,732 件	
	教 職 員	2,543 件	4,790 件	4,520 件	
	学 外 者	1,135 件	1,136 件	1,324 件	
参 考 業 務 利 用 者 件 数 (業務内容別)	文献所在 調 査	3,384 件	5,092 件	6,029 件	
	事項調査	1,482 件	1,169 件	2,431 件	
	利用指導	1,610 件	2,515 件	2,116 件	
相 互 貸 借 現 物 相 互 貸 借	貸	国内	287 冊	314 冊	415 冊
		国外	0 冊	0 冊	0 冊
	借	国内	82 冊	88 冊	113 冊
		国外	0 冊	0 冊	0 冊
文 献 複 写	学 内	3,090 件 19,942 枚	1,346 件 12,617 枚	2,810 件 28,524 枚	
	学外	受託	3,622 件 33,163 枚	4,618 件 40,160 枚	3,669 件 30,778 枚
		依頼	3,104 件 28,664 枚	3,650 件 34,746 枚	3,446 件 28,313 枚
図 書 館 職 員 数	総 数	26 人	29 人	29 人	
	定 員	18 人	19 人	19 人	
	定員外	8 人	10 人	10 人	
図 書 館 職 員 1 人 当 奉 仕 対 象 者 数	定 員	446 人	431 人	436 人	
	定員外 含	309 人	282 人	286 人	
図 書 館 資 料 購 入 費 (千円)		185,132 千円	157,744 千円	159,694 千円	

参 考 図 書 案 内

平成8年度に購入しました開架閲覧室備付けの参考図書は、下記のとおりです。
多くの利用をお待ちしています。

1. ブリタニカ国際年鑑 '96
2. 新日本分県地図全国地名総覧平成9年度新版
3. 六法全書平成8年度版1-2
4. 国史大辞典第15巻 上・中・下
5. 国際連合世界統計年鑑40集
6. タイ日辞典 改訂版
7. 雑誌記事索引集成：明治・大正・昭和前期 人文科学編
8. 雑誌記事索引集成：明治・大正・昭和前期 社会科学編
9. <和英>擬態語・擬音語分類用法辞典
10. 日本語発音アクセント辞典改訂新版
11. 日本文法大辞典
12. 中日辞典
13. 外国人のための基本語用例辞典第3版
14. 新和英大辞典第4版
15. 研究社新英和辞典第5版
16. ドイツ名句事典
17. 新編感覚・知覚心理学ハンドブック
18. 国際連合貿易統計年鑑第43
19. 日本国勢図会 '96-'97
20. 出版年鑑 1996 資料・名簿編
21. 出版年鑑 1996 目録編
22. 環境微生物図鑑
23. 地球環境ハンドブック
24. 原色検索日本海岸動物図鑑1-2
25. 物理学大百科
26. コンパクト物理学ハンドブック
27. 応用物理ハンドブック
28. 新漢英字典
29. 漢英熟語字典
30. 漢英熟語リバーズ字典
31. 冬季オリンピック四カ国語辞典 日・ロ・英・独
32. 現代保健学習・指導事典
33. ニュースポーツ事典
34. 保健体育行事事典
35. 記号の事典
36. イミダス 情報・知識 1997
37. 学術雑誌総合目録 欧文編 1994年版 全8巻
38. 経済学文献大鑑 第1-4巻
39. 日本史大事典 全7巻
40. 日本国語大辞典 全10巻
41. 現代用語の基礎知識 1997
42. 大学院研究者名鑑 '96-'97
43. 花の事典 全5巻
44. 日本の天然記念物
45. 図書館相互協力便覧 国公立大学編
46. 図書館相互協力便覧 私立大学編 第3版
47. 現代ビジネス用語 1996
48. 大百科丸善エンサイクロペディア
49. 有機化合物辞典
50. 動物発生段階図譜
51. 西洋演劇用語辞典
52. フランス文法事典
53. 現代フランス語法事典
54. あたらしい漢字法辞典
 1. Wer ist wer? Vol.34-35
 2. Britanica book of the year 1996
 3. World geigraphical encyclopedia Vol.1-5
 4. Random House Russian-English dictionary of idioms
 5. Encyclopedia of library and information science. Vol.58-59
 6. Historisches Worterbuch der Philosophie. Bd.9
 7. Annual bibligraphy of English language and literature Vol.69

工学専門図書室

1. 最新エネルギー用語辞典
2. 計測制御技術事典
3. 工業技術総覧
4. 疲労設計便覧
5. 図解電気の大百科
6. 磁性体ハンドブック
7. 結晶成長ハンドブック
8. 高分子大辞典
9. 光・電子機能有機材料ハンドブック
10. IEEE 電気・電子用語辞典
11. バイオセパレーションプロセス便覧
12. 岩波生物学辞典
13. 遠東英漢大辞典
14. 最新林語堂漢英詞典
15. トライボロジー辞典
 1. Processing of semiconductors
 2. The biomedical engineering hand book
 3. Concise dictionary of biomedicine and molecular biology
 4. Solid state physics : advances in research and applications Vol.50

全国国立大学大型コレクション及び自然科学系特別図書案内

(平成9年4月～平成9年9月)

下記の大学から利用の案内がありましたのでお知らせいたします。
資料の利用については、参考調査係へお尋ねください。

大 学 名	資 料 名
室 蘭 工 業 大 学	Massachusetts Institute of technology Doctoral Theses. (Microfiches) Computer Science 1986～1995 607 items Aeronautics 1981～1995 174 items
新 潟 大 学	Landolt-Bornstein Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology New Peris Group I, II, IV.
群 馬 大 学	Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 第3補遺, 第4補遺 全108冊
京都工芸繊維大学	Gmelin han book of inorganic chemistry System no. 5, 15, 36, 46, 47, 53, 55, 56, 59, 62, 66 Gmelin hand book of inorganic and organometallic chemistry System no 16, 39 Formula index
岡 山 大 学	Methods in Enzymology Vol.1 (1955)-6, 8-275 (1996) 年 全278冊)
愛 媛 大 学	Methods in enzymology, Vol.275 (1996)
九 州 大 学	Science Citation Index. 1985-1989. Five Year Cumulation. 全80冊
九州芸術工科大学	19th Century American Architectural Books : A Basic University Research Collection (19世紀アメリカ建築研究文献コレクション) 180点
大 分 大 学	Dictionary of Inorganic Compounds. 全8冊
熊 本 大 学	熊本藩家老米田家文書

平成9年度附属図書館商議員名簿

(平成9年9月1日現在)

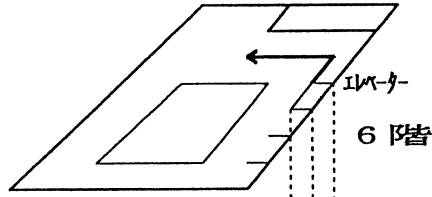
館	長	瀧	澤	弘	理 学 部	小	島	覚
人 文 学 部	東	田	雅	博	理 学 部	金	森	寛
人 文 学 部	大	野	圭	介	工 学 部	小	泉	邦 雄
教 育 学 部	渡	邊		信	工 学 部	長	谷	博 行
教 育 学 部	呉	羽		長	事 務 部 長	竹	若	重 勝
経 済 学 部	芳	賀	健	一	情 報 管 理 課 長	岩	淵	恭 幸
経 済 学 部	長	谷	宏	一	情 報 サービス 課 長	重	里	信 一

富山大学附属図書館施設案内

富山大学附属図書館は、学内に於ける教育・研究活動を支援する施設として、また、地域における学術情報流通の中核として一般市民等にも開放され、土曜・日曜日も開館しています。

研究用図書フロア

(自然科学・工学 産業
芸術 言語 文学)

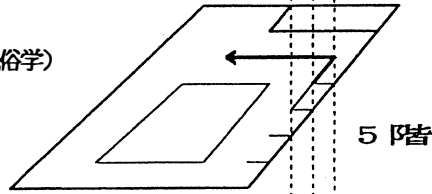


マルチメディア研修室

ビデオプロジェクター等の視覚機器類やパソコン30台が設置され、図書館のオリエンテーション、授業・ゼミ等に利用されています。

研究用図書フロア

(経済 社会学 教育 民俗学)

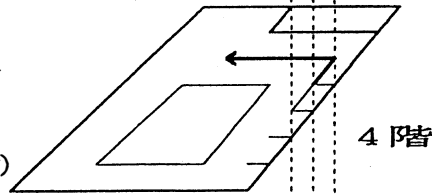


ヘルン文庫

世界的に著名なラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の旧蔵書が収納されています。また、ヘルン閲覧室や展示コーナーが設けられ、ハーン研究者に広く公開されています。

研究用図書フロア

(絵記 哲学 宗教 歴史
政治 法律)

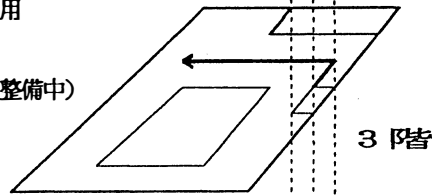


大学資料室

本学関係資料、他大学の大学史・自己点検評価報告書等が収納され、利用に供されています。また、本学の50年史編集にも活用されています。

研究個室(4~6階に9席)

情報コンセントが設置され、持ち込みのパソコンが利用できます。



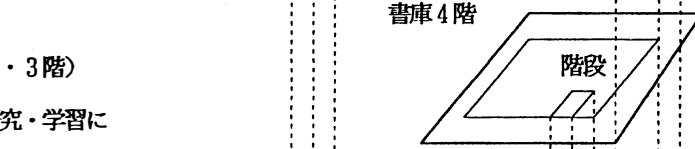
階段

会議室

人文・社会系雑誌フロア(整備中)

グループ閲覧室(新館2階・3階)

小人数(8人迄)での研究・学習に利用できます。



書庫4階

書庫3階

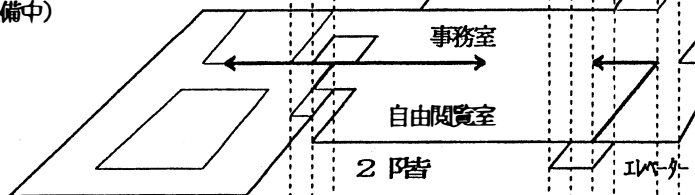
近世文書室

加賀藩砺波地方の農政記録を集めた川合文書等を収納しています。

理工系雑誌フロア(一部整備中)

新着雑誌コーナー

新着雑誌の展示・閲覧スペースでブラウジングコーナーも併設されています。現在、約260点の雑誌が並架されています。



事務室

自由閲覧室

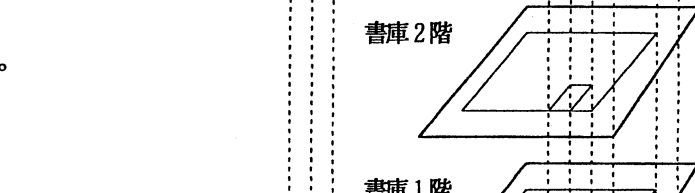
書庫2階

書庫

昭和59年以前に入れた研究用図書(探すときはカード目録で)や雑誌のバックカバー、紀要等が並架されています。

参考図書・学生用図書フロア

授業の参考書として教官が選んだ図書が並架されています。

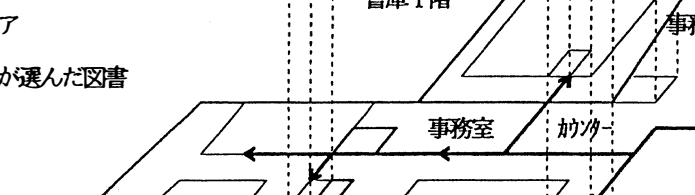


書庫1階

事務スペース

マルチメディアコーナー

インターネット情報端末やCD-ROM端末を使用し利用者自ら文献情報等が検索できます。



事務室

1階

入口

参考図書コーナー

辞書・事典、書誌等が並架されています。